

重要伝統的建造物群保存地区選定に向け、 伝統的街並みを活かした白峰集落のまちづくり

指導教員：金沢工業大学 環境・建築学部 教授 谷 明彦

参加学生：中澤 俊・増田 岳・三木 脩平・田村 佑介・坪田 彬・青柳 怜志・赤野 恵介・
伊藤 伴茂則・早川 優介・山田 将史・山口 潤・板倉 裕樹・大窪 祐太・芳池 和彦

1. 調査研究成果要約

本調査研究は、白山市白峰地区の継続的な地域活性化のために伝統的な街並みを活かし、世界遺産指定へのステップとして重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）選定を視野に入れたまちづくりを行うものであり、街並みや地域の資源発掘・活用によって、地域に活気をもたらすことを目指す。



図1.雪だるまカフェ

2. 調査研究の目的

白山市白峰地区は、豊かな自然条件と歴史的な街並み、文化、景観など非常に価値のある要素が残る地域である。しかし、長期的な過疎化現象とともに、特に近年、少子高齢化や過疎化などの問題が深刻化しており、2005年の白山市への合併による財源優先順位の低下、独自性の喪失など現状からの更なる衰退が懸念される。

本調査研究の目的は、重伝建地区選定を念頭に置き、白峰地区の伝統的な街並みを活かしたまちづくりを行うことであり、継続的な地域活性化の促進を目指すことである。そして、住民が自立的に活動を実施できる場の形成を最終的な目標としている。

この取り組みは、今年3年目を迎える。これまでの活動として、1年目は、私たちが主体となっで行える活動を中心に「古民家の活用」、「景観整備」、「情報発信」の3項目から成る『まちづくり活動の3方針』を定め、これを軸に具体的な提案を行い、実行した。その結果、古民家を再活用した「雪だるまカフェ」を住民と協働して立ち上げ、運営を行うなどの成果を上げ、住民の方々から信頼や協力を得ることができた。2年目は、住民からの信頼や協力を得たことで、長期間を要する白峰地区の知名度向上を目指す活動へと移行していき、全国へ情報を発信できる土台としてホームページやガイドマップの作成などを行った。また、住民と協働で地区内の活性化に向けた活動も実施した。

今年度は、重伝建地区選定に向けた活動に重点を置き、選定された際に整えられた景観が形成できるように景観整備の方針などを検討する。昨年度から作り上げてきた情報発信の土台の更新・発展及び、継続的な住民との協働による活動を実施する。

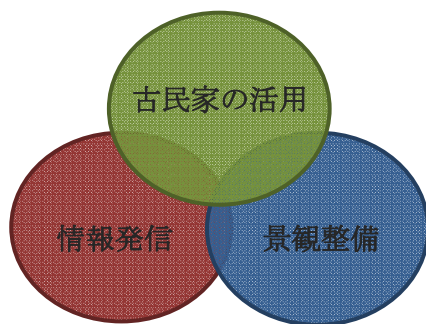


図2.まちづくり活動の3方針



図3 街並みの様子

3. 調査研究の内容

1) 調査研究の手順・方法

本調査研究を以下の手順と方法で行った。

- ① 文献調査：白峰地区に関わる文献や中山間地の活性化事例調査などを広範に行い、地域特性や資源などの把握を行う。
- ② 景観調査（現地調査）：外観調査，地形調査，環境物件調査を行い，街並みの現状や特徴を把握する。
- ③ 事例調査：文献等で事例を知るだけでなく実際に現地に赴き，活性化への取り組みを調査する。今年度は，中心市街地活性化事例として七尾市の一本杉通りを視察した。
- ④ ヒアリング調査：白峰地区で実施される協議会に参加し，定期的に住民の代表者と打ち合わせを行うことで，本調査研究の質を向上させていく。
- ⑤ 来訪者調査：白峰地区で実施されるイベントの際，外部からの来訪者や駐車台数及び，歩行者数などを調査し，アンケートを実施する。
- ⑥ ライトアップ実験：イベントの質を向上させるべく，照明（ライト）の形状や輝度，配置などを考案する。本学で実験を実施し，本番に備える。

2) 調査研究スケジュール

本調査研究では以下の表に示すスケジュールで調査研究を進めた。

表 1. 調査研究スケジュール

月	調査研究内容
4月	文献調査（白峰地区について），第5回雪だるまの里協議会に参加
5月	ガイドマップのための現地調査（白山眺望，撮影），若葉まつりに参加
6月	景観調査（案内板），ガイドマップのための現地調査，加賀市東谷地区の住民の方々の来訪及び見学会の実施
7月	白山まつりに参加，景観調査（交通標識），住民代表と打ち合わせ
8月	景観調査（外観）
9月	住民代表と打ち合わせ
10月	住民代表と打ち合わせ（ライトアップ），ガイドマップ製作，補足調査（ガイドマップ），ライトアップ用のビン集め
11月	輪島市黒島地区での発表，住民代表と打ち合わせ（ライトアップ），ライトアップ実験準備，散策ツアーの実施，温泉まつりに参加，ライトアップイベント実施
12月	市役所職員と打ち合わせ（ライトアップ反省会），まちづくり交付金評価委員会に参加，景観調査（工作物，環境物件），七尾市一本杉通り視察，報告書（概要版）作成

4. 調査研究の成果

本調査研究では、『まちづくり活動の3方針』に沿って、以下の成果をあげることが出来た。

1) 「古民家の活用」による成果

1-1 文化財登録の資料提出

雪だるまカフェとして活用されている古民家を登録文化財にするための資料作成を行った。登録に必要な資料として、都道府県の進達書、市町村の意見書、所有者の同意書、所見、候補物件位置図、配置図、平面図、面積求積図、通常望見できる範囲の図、概観写真がある。それらを提出書類として使用できる形に整理し、書面化した。現在は、白山市役所文化課に資料を提出しており、文化庁の視察を待つ状態にある。登録は平成 22 年度中を予定している。

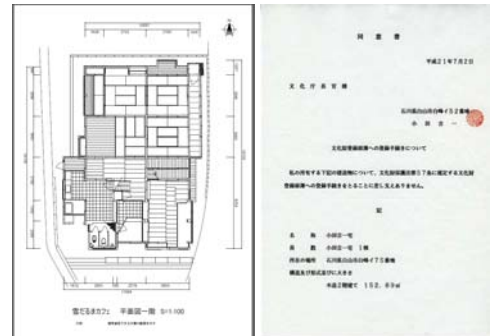


図 4.登録文化財資料

2) 「景観整備」による成果

2-1 「白峰そぞろ歩きの道」案内板修正

現在まで存在していた「そぞろ歩きの道」の案内板が朽ち果てているものもあり、案内板としての機能を果たしていなかったため、白山市役所職員の方と協働し、重伝建地区選定に向け、景観面に配慮した案内板修正を実施した。



図 5.修正前



図 6.修正後

2-2 重伝建地区選定に向けた伝統的景観づくりの検討

景観（現地）調査などで得た情報を GIS や CG を活用して検討を行った。地図データや現地調査だけでは把握できない部分に関しては、実際に住民の方に尋ねるなどして資料作成を進めている。さらに重伝建地区選定に向けた景観整備やまちづくり活動について提案する。



図 7.分析図

3) 「情報発信」による成果

3-1 「白峰雪だるまの里協議会」HP 更新

HP は地区の有志で構成されている「雪だるま倶楽部」の委託を受け、製作したものである。

雪だるまカフェを中心として、地区全般の情報発信を行うことを目標としている。今年度は、住民が調理した伝統料理のレシピや新たにトピックスの項目を新設し、地区内外での住民や学生による活動を紹介した。また、白峰で行われる様々なイベントが実施される度に更新を行っている。



図 8.HP(トップページ)

3-2 まちなみ散策イベントの提案及び実施

散策イベントは、白峰地区の伝統的まちなみの調査研究を行ってきた私たちが主体となって実施するものである。参加者の方々に白峰地区を散策してもらい、私たちが調査で得た知識や

白峰を外部からみた感想，活動で携わった住民などの話を交えながら，白峰について紹介する。イベントを実施する事前に，北國新聞社に宣伝に行き，当日（11月7日）と翌日に新聞に掲載された。このときにライトアップイベントについても宣伝された。



図 9. 散策イベントに関する記事

3-3 ライトアップイベントの実施

ライトアップイベントは他のプロジェクト（イベント）と連動させやすく，華やかで，話題を呼びやすい。昨年度から定期的を実施しており，今年度は，総湯オープン1年目を祝う11月8日に「温泉まつり」の際に『伝統的街並み夜灯り』と題してライトアップを行った。白山市のクリーンセンターに集められたビンを回収し，昨年のもものと合わせて約600本の照明となるビンを用いて，明かりを灯した。イベントを実施する事前に住民に呼びかけを行ったため，当日に準備を手伝ってくれる人が多く見られた。アンケート調査も実施し，43名の方から回答を得ることができた。回答者は地元住民から観光客まで幅広く，年齢層は60代が最も多く，次いで30代，40代が多い結果となった。イベント及び照明の評価は，非常に良く，「来年も見たい」，「感激した」などの意見を頂いた。反面，「人の通りが少なく寂しい」，「他のイベントも実施してほしい」といった意見もあった。また，今年度から，新たな照明として和傘を設置したが，その評価に関しても半数以上の方に良いと評価して頂いた。このイベントも新聞に掲載された。

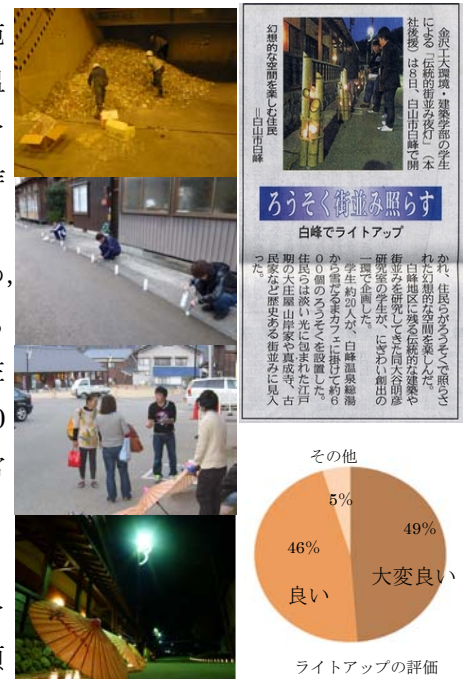


図 10. ライトアップ

(準備・実施の様子，新聞，アンケート結果)

3-4 ガイドマップの作成

ガイドマップは，白山市観光協会と合同で製作した。

白峰を訪れた人にどの場所に何が存在するのか知ってもらうと共に，地区に興味を持ってもらうことを目的としている。今年度は，昨年度に入手できなかった写真や情報を収集し，マップに盛り込み，完成を目指した。配布は，平成22年春を予定している。



図 11. ガイドマップ

4) 見学会の実施，外部発表

4-1 加賀市東谷地区の住民の方々の来訪及び見学会の実施

東谷地区では，月に一度野菜市が開催されると共に「山野草カフェ」と呼ばれる古民家を再活用したカフェがオープンする。このカフェは，東谷保存会の事務所と併用して利用されている。今後，そこをどのようにして運営するか，その参考事例として東谷保存会で「雪だるまカフェ」が選ばれ，6月に白峰地区で見学会を実施し，案内した。



図 12. 見学会の様子

4-2 輪島市黒島地区での発表

黒島地区に存在する県指定有形文化財である「角海家」を有効的に活用するための参考事例として、「雪だるまカフェ」の運営及び白峰地区での活動が選ばれ、11月に実施された黒島地区まちづくり協議会で発表を行った。



図 13.協議会の様子

5. 調査研究に基づく提言

これまでの調査研究を経て、私たちが提言する戦略が住民の方々に、理解されてきた。また、住民、行政、学生による熱心な継続的活動の効果により、ハード事業とソフト事業共に成果が出始めている状況にある。故にこれからが、重要な時期だと言える。そのために必要となる長期戦略を踏まえ、以下の提言を述べる。

- 1) 長期的には世界遺産を目指すため、重伝建地区の選定や文化財登録など街並み、建築、文化など多面的な遺産の発掘と活用が必要となる。そのためには、今まで育ててきた街並みを大切に、地域の文化や生活を守っていくという姿勢が不可欠である。雪だるままつりのように住民の手で「素朴で温もりのあるもの」を提供していくことも重要である。
- 2) 全国的に中山間の集落は人口減少と高齢化に悩まされている。白峰地区がまちづくりに成功して、少しでもこの流れに逆らって活性化すれば、全国的にも注目を浴びると考えられる。まちづくりを一過性のイベントに終わらせないことが重要である。
- 3) 本事業により、大学と地域が一体となって地域の課題に取り組むことが可能になった。このことは大変すばらしく、地域は大学の知恵と学生のパワーを得ることが出来、大学は貴重な教材と生きた経験を得ることが出来る。このような取り組みがいつそう広がることが望まれる。また、同じ地区で活動している大学及び学生間の交流を深め、連携していくことも必要である。
- 4) あまり経験のない大学による思いつきの提案や地域の実情を無視した提案、一過性のイベントの仕掛けなど、が懸念される。課題及び研究室の選別も重要である。
- 5) 今後さらに実施すべき提案事項

本調査研究では、提案事項のうち、継続して行う活動を向上させるための提案と次年度以降に向けた新たな提案とに分かれている。短期間で行える提案を実行しつつ、長期間を要する提案はじっくりと腰を据えて、実施していきたい。例として、以下のものが挙げられる。

- ① 雪だるまカフェに関する提案：伝統料理などを提供するメニューに加え、囲炉裏を活用し、アユの塩焼きや地酒を振舞えるようにする。内装の充実として、電灯を和風の物に変更する。将来的には「まちの駅」にすることも検討する。
- ② 酒蔵の活用方法の提案：雪だるまカフェの南に存在する酒蔵を活用し、どぶろく特区を目指すと共に、公開古民家となるような仕掛けづくりを行う。
- ③ 雪だるまカフェ前の空地利用に関する提案：カフェの前の敷地が空地になったため、プランターなどを設置し、屋外カフェとしての機能を果たす活用案を提案する。
- ④ 梯子の改善：現在、白峰地区にある雪下しのための梯子は、鉄製のものがほとんどであり、まちなみに馴染まず、景観に配慮されていない。そこで、古くから使用されてきた木製の梯子に変更することで景観に配慮することを考案する。
- ⑤ ライトアップイベントに関する提案：伝統的な文化との連携を考案する。雪だるま型のライトなど新たな照明に対する提案も行う。

- ⑥ HPに関する提案：HP上に動画を掲載し，地区での活動をよりわかりやすく紹介する。
- ⑦ 新たなイベントおよび体験プログラムの提案：地区での課題となっている雪下しや伝統料理作りの講習会，脱穀作業，炭焼き体験などの伝統的な文化に触れられる計画を提案する。
- ⑧ 定点カメラの設置：地区にカメラを設置し，HPなどのWeb上で現在の様子を確認できるようにすることで，魅力を発信すると共に防犯対策を行う。 など。

6. 調査研究の自己評価

今年度は、『まちづくり活動の3方針』の中でも「景観整備」に重点を置き活動を進め，並行して，昨年度から行っている継続的な活動として，ホームページ更新やライトアップイベントなどの「情報発信」を実施した。

「情報発信」においては，これまでの蓄積や継続して活動してきた効果により，評判も良く，地区内に浸透しつつある。今後は，積極的な宣伝や白峰特有の文化との連携が課題となる。

「古民家の活用」において今年度は，多くの成果を残すことができなかった。しかし，雪だるまカフェは，住民や学生による地区内外での活動が宣伝されるなどして，白峰の認知度が上昇し，伝統料理の「おろしうどん」のメニュー追加などの相乗効果により，非常に盛況している状況にある。

「景観整備」では，景観面において，徐々に白峰型方式で住居が修景されてきており，街並みの向上が見受けられる。現地調査を実施したことにより，カフェだけでなく地区全域を把握することができた。このことを活かし今年度は，新たに散策のイベントを実行したが，事前準備などの計画が甘く，良い成果を得ることができなかった。また，現地調査を行う際も日程の計画が上手くできておらず，冬の間にも調査を行わなければならない結果となってしまった。

住民と協働で活動することで，現地に訪れる度に住民の方々から声を掛けて頂き，親切にして頂けるようになった。今年度は，雪だるまカフェで忘年会を実施して頂くなど住民と打ち解けることができたと感じている。また，実社会に出る前に社会常識を学ぶことができ，活動した成果に対して生の声を直に聞けることは大変刺激になり，「小さな積み重ねが成果を生む」，その大切さを学ばせて頂いている。住民側の意見として，「代表者に物事が集中してしまう」，「雪下しが困難」などの意見を述べられたため，今後は，取り組みが伝播するしくみなどを考えたい。

地区に関しては，昨年に総湯，今年は特産品施設，来年は植物園と段階的に整備が進められおり，地域に伝わる文化や料理をうまく活かして，現代に伝えようとする動きがみられる。今後は，観光客に対して「また来たい」，「快適だ」と思う仕掛けづくりが必要となる。私たちにとって，この取り組みは，継続して行うものである。そのため，卒業時の先輩が有する地区に対する知識量に達するまでに時間を要することが，引き継いで活動することの難しさであり，自分たちが次の代にどう伝えるかが，今後の課題である。この課題を克服しつつ，学生ならではの視点で，物事を見て積極的に提案を行えるように心掛けたい。



図 14.脱穀作業の様子



図 15.忘年会